



# かやの木通信

【かやの木魂】

○かしこく ○やさしく ○たくましく

第6号 2019/06/19

発行責任者：校長 大石正文

## 夢は大きく！

6月10日(月)、あすチャレ！スクールが6年生を対象に行われました。これは、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、パラアスリートと共にスポーツを体験し、人間の多様性を認め合い、人の強さを身をもって体験することで、子どもたちの心が動き、新たな学びにつなげること」などを目的として、今年度いわき市の小学校では最初に行われました。



講師の永尾嘉章(よしふみ)さんは、2016年リオパラリンピックまで7回車いす陸上に出場し、そのうちシドニー大会では、銅メダルを獲得した方です。6年生との交流の中で、永尾さんは「目標を持つことの大切さ」、「目標や夢を諦めずがんばることの大切さ」を語りかけてくださいました。6年生にとっては、身近に迫った陸上大会や、将来の夢と重ね合わせて自分を見つめる貴重な体験となりました。

## ◆ プール開きを行いました ◆

6月17日(月)は、プール開きを行いました。あいさつの中で、「プールを開くに当たっては、清掃をしてくださったPTAの方々を始め、見えないところで支えてくれる人がいることを心に、①見ずに親しみ体を鍛えること、②めあてを持って学習に取り組むこと、③安全に気を付けることを守り、楽しいプールの学習をしてほしい」と話しました。



これから、気温・水温などの条件が許す日には、積極的に水泳学習や水遊びに取り組んでまいります。朝の健康観察や水着の準備等では大変お世話になります。また、安全が第一ですので、体調が優れない時などには無理をさせないようよろしくお願いします。

## ◆ 大きな地震があり、臨時の安全点検を実施しました ◆

昨夜は、山形県・新潟県で大変大きな地震が発生しました。奇しくも、昨年大阪で地震によりブロック塀が倒壊し、小学生が亡くなるという痛ましい事故があった日です。被害が拡大しないことを祈るばかりです。いわき市でも震度4を観測し、臨時の安全点検を行いました。特に、被害や異常は認められませんでした。様々な事態を想定し、安全対策にしっかり取り組んでまいります。今後、市教委と連携し、(現時点で問題はないが法の定めより高い) 投てき板や草置き場のブロックを補修・撤去する計画です。

## 子どもの安全を守る取組

災害や交通事故、不審者から子どもたちの命や安全を守るために、市教委や警察などと連携した施設や通学路の安全点検の実施、交通安全指導員や見守り隊の皆様による指導・見守り、子ども避難の家のお願ひなど、各関係機関の皆様と連携し様々な取組をしております。

また、学校医や学校薬剤師、学校給食共同調理場の栄養教諭や栄養技師の先生方のご指導をいただきながら保健指導や食育などの充実を通して、子どもの健康増進や食の安全に努めています。

あわせて大切にしていかなければならないことに、こころの安全（時にはからだの安全）を守ることとしての、いじめや児童虐待への対応があります。

いじめや児童虐待が難しいところは、友達同士や親子関係といった人と人との関係の中で起こる問題だということです。片方はふざけているつもりだったが、もう一方はとてもしやだったとか、しつこくして叱っただけなどということがよくあります。それぞれの状況に応じて、異なる対応が求められますが、法律や県・市の指導などをもとに次のような基本方針で解決に取り組んでまいります。

### ◇ いじめについて（高坂小学校における学校いじめ防止基本方針はHP参照）

- いじめはどの子にも起こりえるという認識のもと、積極的な認知に努める。
- いじめの兆候や発生を見逃さず、迅速かつ組織的に対応する。
- 校長、教頭、教務主任、生徒指導主事、学年主任、養護教諭からなる「いじめ対策委員会」を組織し、いじめ対策を行う。必要に応じて心理や福祉の専門家も加える。
- 問題が発生した時は、双方の保護者に事実関係を伝え、児童と保護者に対して支援や助言を行う。

### ◇ 児童虐待について

- 児童虐待は、「子ども安全問題」であるという認識に立つ。
- 保護者は子どもの安全を守る第一義的責任があり、国・市・学校には共同責任がある。（児童福祉法第2条）
- 虐待を受けたと思われる児童を発見した者は、市、県の福祉事務所、児童相談所に通告しなければならない。（虐待防止法第6条）
- 子どものけが、体調、欠席等について保護者と共有できる関係作りに努める。
- 市の窓口やSC（スクールカウンセラー）SSW（スクールソーシャルワーカー）など支援につなげる情報の提供を行う。

いずれの場合も、子どもの安全を最優先に、保護者の皆様のご理解のもとで進めていくことが大切です。日頃から担任を始め、学校と緊密にコミュニケーションを取っていただければ幸いです。学校としましても、日常の観察に加え、困り事調べなどのアンケート調査等を有効に活用し、子どもたちを支えていきたいと考えています。

